

委員会提出議案第2号

議会評価意見書の提出について

上記の議案を、小松島市議会会議規則第14条の規定により別紙のとおり提出します。

令和元年9月30日

小松島市議会議長 前川英貴 殿

提出者 予算決算常任委員会  
委員長 佐野善作

平成30年度事務事業  
議会評価意見書

小松島市議会

## 議会評価意見書①

事業名	2-1-6 移住定住促進事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>人口減少・少子高齢化が進行している本市においては、喫緊の課題であり、継続的に取り組んでいかなければならない。</p> <p>現状、近隣他市町村と比較すると更なる改善、対策が求められ、関係人口の創出への取り組みや移住先として選ばれる本市独自の魅力ある施策が必要であり、先進地事例なども調査研究し継続した取り組みが必要である。</p> <p>また、広告宣伝の強化、受け入れ体制の充実や職の斡旋等に取り組むと同時に定住候補者のターゲットを定めて、Iターン、Uターン等の施策にも早急に取り組む必要がある。</p>		

## 議会評価意見書②

事業名	2-3-1 災害対策事業	
議会評価	1	拡充する
<p>【評価説明】</p> <p>災害対策に終わりはない。近年多発する自然災害や、今後懸念される南海トラフ巨大地震へ向け、あらゆる手段で防災・減災対策に取り組まなければならない。</p> <p>近年、日本各地で多発する災害により、市民の防災に関する意識は高まっている。各自主防災組織を中心に、夜間訓練や地域単位での更なる防災訓練や防災講話の実施を強化すべきである。</p> <p>また、年次計画を早急に立て、津波緊急一時避難場所の増設や避難施設になりえる建築物等の建設に掛かる民間への補助金制度を創設すべきである。そして市民の災害に対する意識向上の為に、啓発の機会を増やし自助力の強化に向け、防災士取得の補助金制度を導入すべきである。</p>		

### 議会評価意見書③

事業名	2-3-2 防災行政無線管理事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>防災行政無線については、発災時における情報伝達ツールとして非常に重要である。市民から「聞きとりにくい」と改善を求める声が多い事から先進地事例などの取り組みを研究し、この問題を解決する必要がある。また、昨今、多様化する情報伝達方法について多重化の導入に向け、早期に努めなければならない。</p>		

## 議会評価意見書④

事業名	3-1-5 消防施設整備事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>火災や自然災害に備え、継続的に地域の防災力を維持するため、車両更新や施設整備を随時、行っていくことは非常に重要である。</p> <p>消防分団詰所の新改築は、地域住民から多くの期待が寄せられており、耐震化されていない詰所については、順次計画的に整備する必要がある。</p> <p>また、今後、人口減少社会を見据えた個別施設計画を策定し、施設の統廃合も検討していかなければならない。</p>		

## 議会評価意見書⑤

事業名	4-1-16 農業振興地域整備計画改定事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>社会経済情勢や、地域を取り巻く環境が大きく変化する中で、昭和 48 年に小松島市農業振興地域整備計画が策定されて以来、約 46 年間見直しが行われていなかった。</p> <p>このたびの本事業は、2 ヶ年での事業であるが、今後も見直しを繰り返しながら農業振興の基幹となるものにしなければならない。</p>		

## 議会評価意見書⑥

事業名	4-1-22 農業用排水路整備事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>高齢化に伴う農業者の減少により、老朽化した農業用排水路の維持が困難になりつつあるが、本市の農業用排水路は地域の生活排水や雨水の排水路としての役割も大きい。よって、今後も地元の理解を得ながら、国や県の補助メニューを活用し、整備しなければならない。</p>		



## 議会評価意見書⑦

事業名	4-2-9 観光・イベント振興事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>観光地、食の魅力等、更なる発信をしていくため、観光プロモーション動画を有効に活用し、小松島市への注目度を高めることは継続的にすべきである。港まつり、花火大会、イベント等の開催も、マンネリ化しないよう、費用対効果や内容の充実が求められる。</p> <p>また、本市ならではの体験型観光の開発も一層促進すべきであり、今後、観光振興とイベント企画の充実については、民間企業を含め、市民全体で取り組む必要がある。</p>		

## 議会評価意見書⑧

事業名	4-3-1 市道整備事業	
議会評価	1	拡充する
<p>【評価説明】</p> <p>老朽化した市道が多い状況である。市道整備や維持修繕は市民要望が高く、計画的かつ積極的に取り組んでいただきたい。安全性、利便性の向上からも非常に重要であり、予算拡充をすべきである。</p> <p>地震災害時、緊急避難道路としての機能強化を図る上で、市道の補修、修繕は必要不可欠であり、市道整備の緊急性は高い。日常の点検業務を充実し、早急な整備が必要である。</p> <p>また、私道のうち公共の用に供する道路については、市が工事費用の一部を補助する制度を導入すべきである。</p>		

## 議会評価意見書⑨

事業名	4-3-2	道路橋梁整備交付金事業（防災・安全整備計画）
議会評価	1	拡充する
<p>【評価説明】</p> <p>高度経済成長期に建設されたインフラ設備は、老朽化しており、全国的にも喫緊の課題である。市全体の現状を把握分析し、必要性かつ効率性を考慮し計画するべきである。</p> <p>更新は多額の費用を要する事から、国の交付金を有効に活用し整備していかなければならない。</p>		

議会評価意見書⑩

事業名	4-3-3 側溝清掃事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>近年、台風や集中豪雨による大規模水害が全国各地で頻発しており早急な対策が望まれる。</p> <p>市民からの要望が高い事業であり、側溝の土砂汚泥の堆積により排水の悪化に繋がり、災害時には浸水被害のリスクが高まるため、地元自治会・水利組合等と協議しながら、整備も含め、更に維持管理に努めるべきである。</p> <p>また、現状は業務の発注まで多大な時間を要していることから、契約方法等改善が必要である。</p>		

## 議会評価意見書⑪

事業名	4-3-4 道路橋梁新設改良交付金事業（総合整備計画）	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>市民生活の中で、ライフラインの一つである道路橋梁については、老朽化が進んでおり、本市においても多くの対象物件を抱えており、早急な対応が課題である。</p> <p>新設や更新に多額の経費が必要なことから、今後も国からの交付金を活用すると共に、十分な検討が必要である。</p>		

## 議会評価意見書⑫

事業名	4-4-1 合併処理浄化槽設置補助事業	
議会評価	1	拡充する
<p>【評価説明】</p> <p>公共下水道が供用されていない現状において、合併処理浄化槽の普及促進を図り、生活排水の処理を行い、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に努めるべきである。今後も補助対象事業として拡充すべきである。</p> <p>現在、市民の事業利用率が低いため、今後は事業手法の改善を図るべきである。</p>		

### 議会評価意見書⑬

事業名	4-4-4 日峯大神子広域公園（脇谷地区）整備事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>国の社会資本整備総合交付金を受けての事業であり、市民からも要望・期待度も高く、埋蔵文化財調査及び国、県との協議を早期に終え、計画的に令和4年度の完成を目指して事業を推進すべきである。</p>		

## 議会評価意見書⑭

事業名	4-4-10 高速道路対策事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>高速道路の早期完成の市民の要望度は高い。地元関係者との協議を重ねながら、高速道路完成までに周辺整備事業を計画的に進めていく必要がある。</p>		



## 議会評価意見書⑮

事業名	4-5-3 空き家等対策事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>今後も小松島市の空き家は増加傾向にあり、倒壊の危険性が高い空き家も増えてきている。</p> <p>対策事業の周知とともに、空き家所有者に対して管理・除去を適正かつ計画的に進めていかなければならない。除却が進まない危険な空き家に対しては、特定空き家の指定を行い、除却を強く押し進めていくべきである。</p>		

## 議会評価意見書⑩

事業名	5-4-8 ごみ焼却施設整備事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>老朽化施設のため、毎年修繕に多額の費用を要している。計画的に適正な整備維持を行い、経費削減を図るとともに、新施設稼働まで現施設の延命にも努めなければならない。</p> <p>また、ごみの減量化にも取り組まなければならない。</p>		

## 議会評価意見書⑰

事業名	6-2-11 自殺対策事業（自殺対策計画策定事業）	
議会評価	5	終期設定し終了
<p>【評価説明】</p> <p>本計画策定事業は完了した。しかし、小松島市自殺対策計画に掲げる重点施策や基本施策を実施し、成果を上げていく事こそが本来の目的である。</p> <p>心の健康に関する市民の意識向上を図り、自殺者ゼロが達成できる地域社会を目指して総合的な事業を推進すべきである。</p>		

議会評価意見書⑱

事業名	6-5-14 障がい福祉サービス事業	
議会評価	1	拡充する
<p>【評価説明】</p> <p>障がい者が日常生活を営む為、必要不可欠な事業である。国、県に向けて財源確保に努め、事業の適正運営、職員のスキルアップを進めなければならない。</p> <p>サービスを受ける方々にとって、ニーズに合ったサービスかつ柔軟な対応が求められる。</p> <p>今後もサービス費の増加が予測されるため、事業所への管理指導体制を充実する必要もある。</p>		

## 議会評価意見書⑱

事業名	7-2-10 公民館整備事業	
議会評価	2	現状のまま継続する
<p>【評価説明】</p> <p>公民館は地域住民の交流の場として重要な役割を果たしており、また、災害時の避難場所としての役割も大きく、早期の整備が求められる。</p> <p>今後において、個別施設計画を策定し、施設の複合化も含めて利用者の安全確保という観点からもユニバーサルデザイン化するなど、高齢者や障がい者等にやさしい施設となるよう早急に取り組むべきである。</p>		

